

論文審査の結果の要旨

<p>報告番号</p>	<p>甲 保 第 58 号 乙 保</p>	<p>氏 名</p>	<p>多田 美由貴</p>
<p>審査委員</p>	<p>主 査 奥田 紀久子 副 査 葉久 真理 副 査 安井 敏之</p>		

題 目 Development of Childcare Literacy Scale for Mothers with Infants and Children  
( 乳幼児をもつ母親の育児リテラシー測定尺度の開発 )

著 者 Miyuki Tada, Reiko Okahisa  
2023年2月発行 The Journal of Medical Investigation Vol.70 No.1,2に掲載予定

要 旨 本研究は、『乳幼児をもつ母親の育児リテラシー測定尺度(CLMIC)』の開発を行い、その信頼性と妥当性の検証を行うことを目的とした。尺度原案の作成から予備調査を経て、本調査を行った結果、CLMICは、【地域の子育て情報の探索】、【自分らしい子育てへの意思決定】、【情報の信頼性の吟味】、【納得に向けた疑問の追究】の4因子24項目で構成された。

尺度全体のクロンバックの $\alpha$ 係数は0.934と信頼性が確認でき、探索的因子分析により構成概念妥当性を確認した。また、CLMICとCommunicative and Critical Health Literacy (CCHL)、性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度、日本語版Short-Form-8-Item Health Survey (SF-8) に有意な正の相関が、CLMICと日本語版Parenting Stress Index Short Form (PSI-SF)の間には、有意な負の相関が認められ、収束的妥当性および基準関連妥当性が確認できた。

本研究により開発されたCLMICは、信頼性と妥当性が確保された尺度であり、今後、母子保健活動において、母親の育児リテラシーの把握や育児リテラシーに着目した支援内容の検討に活かすことができる。また、母親の育児ストレスの軽減や、子どもの安心安全を守る健康行動、健やかな子どもの成長発達および子どもと母親との愛着形成促進にも貢献できる、有用性の高い尺度であることが示された。

その社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判定した。